

教員氏名：小池 千秋（教育学科／教授）

1. 教育の責任（何をやっているか）

教育学科に所属し、主に教員免許に係る授業を担当している。具体としては展開科目として「生徒・進路指導の理論と方法」「教育相談の理論と方法」、発展科目として「学校・学級経営」「チーム学校論」を担当している。大局として自身は義務教育の実務経験者として現場での経験を元に、教員を目指す学生に対する学びの支援を大切にしている。教育活動において教師が果たす役割には常に不易と流行があるが、特に流行の部分においては、これからの時代の変化に柔軟に対応する姿勢が期待される。例えば児童生徒の学びの多様化や個別化、保護者対応の複雑化等、場合によっては難解な課題にも適切に向き合えるなど、柔軟に対応できる力が望まれる。つまりこれからの教師は自らも成長しながら教育と向き合う姿勢が必要である。そのためには教職を目指す学生には多くの学びを通して、自身の教育観を構築にして欲しいと考える。そこで、教師を目指す学生が教師の資質能力について考え、自身の強みや弱みを見定めながら教員に向かうための教育観を構築し、教師としての一步を踏み出せるよう学生の学びを支えたいと考える。

2. 教育の理念（なぜやっているか）

《教育課題への対応》

教師を目指す際に、教育課題を踏まえたうえで、必要な知識・技能について学びを深めることは、教師としての教育観を構築する上で重要な要素となる。そのため教育課題を意識しながら、学生の学びを支援していきたいと考える。取り扱う主な教育課題としては、「社会の変化と教育計画の変化」「いじめや不登校、特別な支援を必要とする児童生徒の現状と対応」「教員の負担と専門性の向上」「学校と地域の連携の在り方」などであるが、これらの内容を担当授業の中に意図的・計画的に組み込むことで、学生の学びを深めるとともに、学生一人一人の教育観構築に寄与したい。

《各教育課題の扱い》

- ① 「社会の変化と教育目標の変化」については、「学校・学級経営」にて扱う。学校経営は児童生徒の人格形成に向け、目指す児童生徒像を明確にしながら組織的運営を行うものであるが、児童生徒の実態を把握し、法を踏まえ、地域や保護者の願いな

ども意識しながら構想するものである。昨今激変する社会の中では、児童生徒の自己肯定感、倫理観、創造性、判断力等の育成をより一層求められている。またそれらを根幹で支える教育計画も柔軟に見直す必要がある。そのような考え方や仕組みについて理解しておくことは、教師として充実した学級経営を行う上で大切な要素である。

- ② 「いじめや不登校、特別な支援を必要とする児童生徒の現状と対応」については、これからの教育を支える教員にとって必須な資質能力である。現状を理解し、それぞれの場面における対応の具体を実践できるようにすることは意義のあることである。これらの内容を「生徒・進路指導の理論と方法」「教育相談の理論と方法」にて扱いたい。
- ③ 「教員の負担と専門性の向上」については、昨今課題として扱われる業務改善、すなわち「教員の働き方改革」や時代の流れと共に変化する教育に対応するための「学び続ける教師」について理解を深める必要がある。「学校・学級経営」や「チーム学校論」にて扱い、教育現場の実情も踏まえながら学生の学びを支援したい。

3. 教育の方法（どのようにやっているか）

《具体的な教育上の実践や教材の工夫》

- ① 講義形式の授業では、プレゼンテーション及び紙資料（文部科学省資料、国立教育政策研究所資料、各都道府県作成資料等）により実施している。また必要に応じて動画（独立行政法人教職員支援機構等）などのデータも活用し、授業内容の効果的な伝達に努めている。
- ② 授業内で可能な範囲で、協議や意見交流、発表などの授業形態を取り入れ、積極的・主体的な学びにつながるよう配慮している。
- ③ 振り返り用紙を用意し、本時の授業で学んだこと、考えたことを振り返ることができるようにしている。
- ④ 授業の内容に係る質問については常時受け付け、適時に回答できるようにしている。

《各授業における工夫》

- ① 「生徒指導・進路指導の理論と方法」

生徒指導に関する内容については、生徒指導提要（文部科学省）を元に講義資料を

作成し授業を展開している。特に適宜事例研究を取り入れ、担任としての対応や学校組織としての対応など、教師としての実践的対応能力を育成できるよう実務経験を踏まえながら展開している。進路指導に関する内容については、文部科学省が作成しているキャリア教育に関する指導資料（小、中、高）を使用し、キャリア教育と進路指導の捉えの違いや最新のキャリア教育の指導内容、小中高の系統性などを踏まえた内容とし、どの校種に配属されても他の校種との系統性を押さえたうえで指導できるよう実践的な視点で内容を扱っている。またキャリア教育に関する指導案を持ちより、交流することを通して、キャリア教育に係る指導案の見方や特徴などを押さえられるよう実践的な力が身に付くよう工夫している。

② 「教育相談の理論と方法」

講義形式を中心として展開するが、適宜事例研究を取り入れ、担任としての対応や学校組織としての対応について、意見交換をするなどして、担任としての対応について、実践的な見方が身に付くよう展開している。また、児童生徒理解はもとより、いじめや不登校、自殺予防、発達障害、非行、心の病等、実際の学校において遭遇する可能性の高い内容について、内容の理解や学校における対応の実際等を学べるよう工夫している。

③ 「学校・学級経営」

学級経営は担任の業務の中で最も重要な位置付けとなるとともに、学校経営の視点からも果たす役割は大きい。教職に就いたときに迷わず担任業務に対応できるよう、業務内容、学級経営の考え方や危機管理、学校経営と学級経営の関係性などを実践的に学べるように工夫している。教室環境整備の考え方に基づき、学生がオリジナルの教室環境を考えさせる等、主体的・実践的な学びの場面も設定している。

④ 「チーム学校論」

学校課題が多様化、複雑化する傾向がある中、必要に応じてチームとして対応することは大切である。専門性の高いメンバーと有機的に協働し、より良い方向を見出しながら効果的な教育活動につなげることが望まれる。学校におけるチーム概念や取組の実際について教育現場とつながりながら学びを深めることは意義のあることである。

4. 教育の成果（行った結果どうだったか）

教員養成を目的とする大学において、教師の資質能力を捉え、それに基づいた教師としての実践力を身に付けさせることは、重要な役割であると考えます。授業において講義（実務経験を踏まえた話も含む）や学生同士の意見交換、交流、発表等を通して学びあうことで、一定の理解や実践力を育成することは可能であり、手ごたえも感じる事ができました。特に本気で教職を目指す学生については、習得率も高く学びも深い傾向がみられ、そのような意味でも成果が感じられる。しかし課題も散見される。

課題の一つは「教育観」の養成である。若い教師でも自身の教育観を身に付けておくことは大切である。教育観は教師として児童生徒理解や成長に導く際の考え方の基盤となるものである。教師を目指す学生は、様々な学びや体験を通して自ら教育観を作り上げていくわけであるが、不十分な学生も一部見られる。指導技術は学べていても教育観が未成熟であれば教師としてのバランスが良くない。

課題のもう一つは専門性の弱さである。保健体育の教員免許取得については専門性が明確であるが、小学校1種の教員免許のみを取得する場合は専門分野が明確でないため、自身の強みを意識しにくい。教師としてスタートラインに立つまでに一つ強みとなる要素を身に付けさせたい。自身の強みは教師としての自信にもつながり、教師としての成長を意識した時に、いろいろな面で相加効果をもたらす。特別活動でも道德教育でも総合的な学習の時間でも良いので、一つ強みを身に付けさせて教育現場に送り出せば理想的である。

5. 教育における今後の目標（これからどうするのか）

喫緊の教育課題も踏まえつつ、教育観と実践的指導力をバランスよく身に付けた教師の育成を目指すために担当科目でできることを整理しながら学生の学びを支援したいと考えている。また教師としてスタートラインに立つ前にどのような資質能力を身に付けておけばよいのか、教育現場と情報交換するとともに、文部科学省や各都道府県の情報等も吟味しながら授業に反映させていきたいと考える。

【添付資料】 ※全部又は一部の現物を省略しています。

1 担当科目のシラバス

2 担当授業のプレゼンサンプル及び配布資料

（2025年9月11日現在）